

事業計画書

| | |
|--------|----------------------------------|
| 事業名 | 『母たちのスキルアップ支援』～障害のある子供たちの未来のために～ |
| 実施場所 | 沼津市町方町 70 他 |
| 実施予定期間 | 平成30年4月1日～平成31年3月31日 |

◎実施内容

| 日程 | 実施項目・作業項目 |
|-----------|--|
| 毎月第2水曜日 | <p>※イベントや研修会等の行事日程だけでなく、実施内容(打合せ・会議・資料作成・参加者募集・準備・検討会)、実施場所、参加対象、人員配置、役割分担など、事業期間すべてにわたる実施内容を記載して下さい。</p> <p>【障害者のしごとを考えるミーティング】 (場所) 小商い研究室 4F ミーティングルーム (内容) 活動報告・意見交換会・スキルアップ研修・勉強会等 (対象) 母の会メンバー・他 外部専門家など 10名程</p> |
| 9/12～19 | <p>『心のままアート展』開催 (市の後援のみ) * 補助申請対象外</p> |
| 10～11月頃 | <p>【スキルアップ研修】 (目的) 近隣の先駆している事業所・アトリエの取り組みを学び、自分たちの活動に取り入れ、知識を高める。 (視察予定)・真鶴 アトリエ「Bonami」 ・小田原 NPO 法人 B型事業所「アール・ド・ヴィーヴル」 ・藤沢 NPO 法人 地域作業所「ピープルファクトリー」 (内容) マイクロバス貸し切りで研修 (対象) 母の会メンバー・支援者などの15～20人程度</p> |
| (仮) 9～10月 | <p>【ジョブコーチ研修】 (目的) 「教え方を教える人」を育て、職場と対象者の力を引き出す (内容) ジョブコーチ資格を取得 (対象) 母の会メンバー</p> |

◎事業効果

※事業の効果を記載して下さい。

ソフト部門のステップアップ型事業・ハード部門4事業については、事業効果に対して、客観的な評価ができるよう、成果指標と数値目標を設定するなど、その検証方法を必ず明記して下さい。

障害を持つ子供たちを取り囲む環境は様々であるが、一番身近な存在である母親たちがスキルアップすることにより、子供たちに自信を持って積極的に関わることができる。自身の子供だけではなく、母たちの得意とするものや趣味（料理・掃除・手芸・絵画・PCなど）を皆で共有しながら、関りをもつ子供たちの特性や強みに合った作業を細分化し探っていく。現段階では困難が多いと思うが、わたしたち母親がスキルアップすることにより、子供たちの可能性を見出す入り口の役割を担えると考えている。ステップアップの際には、より専門性の高い指導者に依頼を進めていく。

こうした取り組みを専門機関等と連携していく上で、更なるスキルアップやコミュニティ構築に繋がり、地域の活性化・就労支援の向上が見込まれる。

◎評価の視点に合致していることの説明 ※評価の視点については、募集の手引きを確認して下さい。

| | |
|------------|--|
| <p>公益性</p> | <p>※不特定多数の住民の利益の増進、地域のまちづくりの推進に寄与する事項等を記載して下さい。 障害を持つ子供の子育てに悩む母たちのコミュニティとして機能。また、彼らの特性や個々に合った「しごと」や「やりがい」、「エイブルアート（障害者アート）」を地域に発信していくことにより、障害理解・障害者雇用の周知・拡大につながり、まちづくりに参加できる。</p> |
| <p>発展性</p> | <p>※活動の広がりや波及効果がどのくらい見込め、地域の発展・活性化につながるのか記載して下さい。 障害を持つ子供の個々に合った作業を見出し、強みを伸ばしていくことにより、いずれ雇用側に欲しい人材と言って頂けるスペシャリストの卵を養成していく。それと同時に、母たちの知識も高めることができ、活動の幅が広がる。</p> |
| <p>地域性</p> | <p>※地域の実情・課題の解決に向け工夫した点、地域資源の活用などについて記載して下さい。 地域には障害を持つ人が増えているが、障害のことや障害者雇用に身近に感じる人が少ないのが現状である。ジョブコーチ資格者が地域に増えることは、障害者雇用の促進に有効である。</p> |
| <p>必要性</p> | <p>※事業を実施する意義や、補助金の交付が有益で質の高い事業展開につながる理由について記載して下さい。 東部地区は、障害者に対する知識や設備がまだまだ不十分で、当事者の私達も情報不足である。私達自身情報を集め発信しスキルアップすることで、より良い支援環境をつくることができる。</p> |
| <p>先導性</p> | <p>※事業の新規性や独自性など、工夫した点について記載して下さい。 2020年のパラリンピック開催都市である伊豆市は、今現在障害理解について力を入れている。沼津市も障害理解のある都市に成長していく上で、自分たちの活動が主導的な役割を担うことができる。</p> |
| <p>継続性</p> | <p>※助成事業終了後も継続的・自立的な活動とするために、どのように取り組んでいくかについて記載して下さい。 スキルアップしたメンバーは、新たなステップとして専門家とワークショップ形式で、プレジョブができる。母と子供たちを継続支援していき、地域に特別支援教育の理解を深めていく。 母の会のコミュニティは、先輩ママや自分たちの体験談などを共有していきながら将来の過ごし方を考え、下の世代にはアドバイス・情報等を伝える活動を広げていく。結果的にコミュニティの輪が広がり、相談しやすい機能を持つことで地域に密着し、『障害のある人もない人も等しく生きることができる社会づくり』に継続参加していく。</p> |

◎特に高い公益性を有することの説明

※補助金申請額が「特に公益性が高い事業」に該当する場合は、その理由を記載して下さい。